まちづくりのルールについて考えてみませんか（その2）

まちづくりタウンミーティング

# 市民と行政の協働で元気なまちへ

## ～（仮称）自治基本条例の制定に向けて～

## を開催しました！

平成 29 年 3 月 15 日(水)から 24 日(金)にかけて、市内８ヶ所の各地区公民館で「まちづくりタウンミーティング」を開催しました。合計 102 名の方にご参加いただき、たくさんのご意見・ご提言をいただきましたので、主なものを紹介させていただきます。

タウンミーティングでは、まず市から橋本市を取り巻く現状や今後の予測、市が考えていること等を説明しました。その後、参加者の皆さんからご質問やご意見をいただき、それにお答えをさせていただきました。

今後、自治基本条例策定委員会の設置に向け、4 月 5 日から 21 日までの期間で市民委員の公募を行います。策定委員会を開催していく中で、今回いただいたご意見を活用させていただきます。

また、今後もこのようなタウンミーティングを開催したいと考えていますので、その際はぜひご参加ください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**■恋野地区公民館（3/15 18:30～）参加者：19 名**

〇主なご意見：

・人口が減少するということだが、職員数も減るのか。

・高齢者の移動手段が問題となっているが、こういったところを解決するための提案は議会からは出ているのか。

・民間企業であれば、こういった話には必ず期限を切る。結果がどうなったかも見えてこない。

・市の広報で情報発信しているという

が、広報を見ない。見ている人がいない。
- 予算がなくてもサービスはできるので、そういうものを大事にしていく必要がある。
- 「障がい者を含む」という表現について、あえて入れる必要が無いのではと感じた。気を使うことが逆効果になることもある。
- 区長のように市に関わることが多いと、会議がバッティングすることがよくある。
- 委員を募集する際に高校や大学生を入れることはできないか。若い意見を入れてはどうか。
- 高校に出向いて話をするのはどうか。
- こういった事を考える場合これまでの反省の上に立ってすべきと思うが、行政からはやってきたことについての反省が出てこない。
- 同じような会議ばかりやっているように感じる。余計に混乱する。
- 会議で意見しても、結果が返ってこない。周知されない。
- 工事の予定が遅れていることに対して意見しても返事が返ってこない。
- 公民館で地域シンポジウムをした際に、若い人がどうしたら戻ってくるか話しあったが、働く場所がないから出ていかないと仕方ない、という意見があった。どうやったら若い人が「恋野」でいてくれるかがポイントになる。
- 若い人や高齢者の意見も取り入れて進めてほしい。
- 行政に話をしても「金がない」と返される。「金がない」ばかり言わないでほしい。活きるお金の使い方をしてほしい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

■橋本地区公民館（3/16 18:30～）参加者：6 名

- 全国に自治体はどれぐらいあるのか。
- コンパクトシティの成功事例はあるのか。
- 「協働」という言葉は一般的なものなのか。
- 委員の公募について、誰が委員を決めるのか。
- 条例ができた後、委員はどうなるのか。
- 条例のたたき台のようなものはあるのか。
- DMO について、観光の元にするのは何か。
- 地域包括ケアの「コーディネーター」がたくさんいるが、１０年先には若手はいない。次のなり手がいなくなるのでは。
- 地区にもよるが、人を育てていく必要がある。
- 市の考え方が聞けてよかったと思う。こういった聞く機会が重要になる。
- 問題は出てくるが、話し合うことで解決へ向かっていく。

・市の中で「墓」の問題はテーマになっているか。管理をしているが、ゴミ処理の部分だけでも支援してもらわないと今後は難しい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

■高野口地区公民館（3/18 13:00～）参加者：10 名

・企業誘致はどんな状況か。
・ボランティアをする人もみんな知った顔、同じメンバーになっている。
・地域でやると言っても担い手が疲弊してしまって何かするのは難しい。次の世代が育たないといけない。
・世論調査にしても、全ての意見を聞くことは難しい。意見を聞くにしても従うだけでなく、できないものはできないと言ってほしい。
・市がどういう動きをしているかを伝えることは、意見を聞いて方針を変えるかどうかは別として、伝えること自体に意義がある。
・こういった場に若い人に来てもらう方法が必要でないか。
・若い人が地元に興味や関心がないから出て行ってしまう。地元に愛着を持ってもらえることが重要。
・橋本市のご当地カルタを作ってほしいという一般質問があったが、良い取り組みだと思う。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

■学文路地区公民館（3/18 15:30～）参加者：12 名

・兼業農家に手厚くするような政策はできないのか。
・憩いの広場を作ってくれと頼みにいったが、前例がないからできないと言われた
・ニーズを叶えすぎたり風呂敷を広げすぎたりするのもいけない。的を絞っていかないといけない。
・「こういう風になります」という具体的なことをわかりやすくしてくれないと理解できない。
・新しい道ができても、「引っ越し道路」となって市を通過してしまうだけになるのでためにならない。

・大阪から引っ越してきて、何の楽しみもいいこともないと感じたが、人が良い、仲間意識が良いと感じた。友達が増えた。
・市内では働く場所がない。アルバイトもない。
・転入してきても、仲間に入っていきづらい。
・新しく転入してきた人をいかに引っ張り込むか、溶け込みやすくするかが重要。
・会議をしても「これが決まった」ということが感じられない。効果がでない。
・市に期待しているが、結果が出ないのがもどかしい。
・市の会議に意見しに行ったら、すでに内容が決まっていた。決まる前に意見を聞いてほしい。
・市の職員の専門性を活用できていないのでは。大学での専攻を活かすことはできないのか。
・協働でやるにもお金はいる。
・市職員が会議に入ると残業代がかかるのではないか。
・赤字が出るならどこかを切らなければいけなくなる。
・振興局等の他の団体と連携を取る必要もある。
・してほしいことがあっても動き方がわからない。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**■隅田地区公民館（3/21 18:30～）参加者：11 名**

・条例を作ってまちづくりがどう動くかイメージがわかない。
・班でも高齢化が進んでいる。他の班と合わせないといけなくなる。役員を立てるのが大変。老人会に入ってもらうのも大変。
・「地域で元気な人」をどのようにして作っていくか、掘り起こしていくかが重要。
・ターゲットがわからない、はっきりしていない。「元気なまちづくり」とは何か。何をしたいのかがわからない。
・区長理事会の仕事は行政の仕事がほとんど。
・議員がどれだけのことをやっているのかが見えてこない。
・みんなでやろうはいいが、議員や行政にもそれ以上に目に映ることをやってほしい。
・区長は仕事ばかり増えていく。会議が多すぎる。
・この地区での問題を話し合う場だと思ってきたが期待外れだった。
・長期総合計画と自治基本条例の役割の違いは。
・地域包括ケアシステムもやっているが、ソフト面の話ばかりなので、具体的な動きが見えてこない。住民で答えを出すのは難しい。
・行事等を動かしているのは 60 歳以上の方がほとんど。こういった６０～７０歳が地域を動かす

主体であると捉えていかないといけない。「高齢者」という捉え方を変えていかないといけない。
- リタイヤしてから元気を活かす機会がない。元気な高齢者を不元気にしない、活かす仕組みが必要。張り合いがほしい。
- 60 歳ぐらいの人に頼んでも忙しくて手伝ってもらえない。
- 区レベルで解決できていない問題を市全体で解決できるのか。
- 公民館で集まって、地区内の問題点を見ながら歩くようなイベントはどうか。
- 共育コミュニティに関わろうという人も、子育てが落ち着いた母親もいるが、60～70 代が多い。
- 地域で活動して、それで満足感が得られれば、ちょっとずつ変わっていく。満足感を得てもらえる関係を、一部ではなく地域の雰囲気として作っていくことが必要。精神的に充実感を得られるような仕組みが必要。
- 恋学文祭のような取組がきっかけやヒントになる。
- 地域のことを話せる人もたくさんいる。こういうところに出向いて話を聞きに行くといったように、掘り起こしていくことが重要。
- 区長には区長にしかできないことをしてもらう、といった役割分担が重要。
- 高齢化が進む中で、取り組んでもすぐにはできない。
- 問題は誰がやるか。
- ボランティアも無償では継続してやっていけない。
- ある地区での取り組みがうまくいけば、それをモデルに広げていくことが重要。
- 橋本市は公民館活動が活発なので、今ある自主的な力をどう結集していくかが重要。
- 「この地区はこういった取り組みをする」といったアイデアに賞金を出すのはどうか。
- 地域がこうしたいという願いを行政が聞いてほしい。
- 歴史的な要所はたくさんあるのでハイキングコースを作ることもできるが、市に行っても金がないと言われる。
- 歴史的な場所の管理も、所有者がわからないので手を出せないといったことがある。情報を提供してもらえれば地区でも管理できる。
- コンパクトシティという考え方は、「端っこは見ない」という風にも受け取れる。
- 後の世代がいない。子供がいない。
- そもそも条例は必要なのか。
- 条例がなぜいるのか、必然性が見えてこない。なぜあわてて作る必要があるのか。
- 小学校が統合されたことで、母体が大きくなって地域性が薄まっていると感じる。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**■山田地区公民館（3/22 18:30～）参加者：12 名**
- 子どもを産んでもらうための施策にどのくらいのお金を出しているのか。
- 具体的に何をしていくかが重要になってくる。国でもしていない、突拍子もないことに取り組むことが必要では。
- 必要のない施設は廃止するか地元に移管するという話があったが、これを地元でも受けられないとなった場合どうなるのか。
- 山田地区は幼稚園が昔から無い。保育園しかない。

・各団体や市民の協力を得る必要があるのは確かだが、ボランティア搾取になるのではないか。
・若い人を増やさないといけない、お金もついてこないといけない中で、ふるさと納税についてはどんな状態か。
・PR の方法が重要になってくる。県人会とも連携しているのか。
・ふるさと納税をする人には、地元のプラスになると考えてする人と、単なる通信販売のように利用する人がいる。
・ふるさと納税は地場産品の宣伝になる。一方で地元の産品でない物をお礼品に使っている自治体もある。
・条例ができれば区長の仕事は楽になるのか。

・小学校区単位等で考える場合、区長を知らない地域も含まれることになることで市との距離が遠くなることもあるのでは。
・日本は食料を輸入に頼っているが、今後国内で作らないといけなくなることも考えられる。
・山田地区は小中学生がほとんどいない。１０年たてば高齢者だけになる。農地は荒れて限界集落に近くなっていく。こういった中で、もっとカンフル剤的な取り組みをする必要があるのではないか。
・企業誘致によって、市内の雇用は増えているのか。法人市民税は増えているのか。
・限界集落にも日の当たるように、こっちにも目を向けてほしい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**■紀見地区公民館（3/23 18:30～）参加者：15 名**

・市役所は市内で職員数が一番多い企業と言えると思うが、そういった立場の人が一般市民に意見を聞いてくるのか。「どうしたらいいですか」と言っているように聞こえる。職員が考えるべき。
・意見を聞いて実行したとして、責任は誰が取るのか。市民のせいにされるのでは。
・話し合いの場が設けられることはうれしいが、こういう形で本当にいいのか。

・行政サービスを受ける側が何をしてほしいかを話す時代になったのではないか。
・条例を作って活性化していこうということだが、これは市や議会で考えることではないのか。

- 市内では一杯飲みに行けるような場所もない。30 年前に空気が良くて引っ越してきたが、来なかったら良かったと思う。
- 行政はもっと具体的に提案すべきでは。協働の名のもとに色んなことを押しつけられるのでは。
- 基本理念はこういった場で聞くものではなく、市で作るものでは。
- ゴミの収集回数を減らすなど、市のやることは言っていることと反対の方向ばかり向いている。本当に人を呼び込む気があるのか。
- 職員が現場を知らないのではないか。
- 市のことを押しつけてくるような話が多い。
- 地域特性を踏まえてまちづくりをしていくことが必要。
- 自治基本条例フォーラムの参加者は市職員が多かった。
- 自治基本条例を急いで作ろうとしているように感じる。性急に作って市民に押しつけられても困る。
- 協働のまちづくりは双方同等でお互いの信頼関係がないと拒否反応が出てしまう。
- 組織での活動が大きくなってきている団体もある。これらを結びつける仕組みをイメージしてまちづくりをしてほしい。
- 防災・共育コミュニティ・地域包括ケア、それぞれがバラバラでやっている。
- ふるさと納税を活用して、元々あった産業などの力を生かしていかないといけないのでは。
- 「協働の基本指針」をつくったことの評価はどうか。また自治基本条例との違いは何か。
- 条例を作った方が市民はハッピーになるのか、他自治体での事例はあるのか。
- 末端の意見を吸い上げてやっていく方向かと思うが、これはどこかを立てるとどこかが立たない。
- 声の大きい人の意見が通ってしまうのではないか。
- こういう方向に行ってますというプロセスを市民に見せながら進めていく必要があるのではないか。
- 市に目を向けることができるようになったのは退職してからだった。
- 河内長野との時給のギャップが 100 円ほどある。これでは若い子は来ない。
- 企業誘致の後のフォローがないと聞いた。誘致した企業の良さをアピールするなど元気づけることをしていくべきでは。
- 広報も半分の人は見ていない。作る側の熱意が無いから中身がない。伝わるように熱意を持たないといけない。
- 城山台は人材の宝庫。集めれば企業ができるほど。
- これからの農産物はオーガニックに進んでほしい。若い人が地方に帰って農業に取り組んでいる事例もあるので、こういった方向付けをしてもらいたい。
- 総花的な話で、何を協働でできるかが難しい。防災と共育コミュニティをどう結び付けていくか。
- 教育委員会と市長部局で全然違うが、区長からすればどちらも同じ。横串を通すということだが、こういった部分を認識しないと絵に描いた餅になってしまう。
- こういった場に市長も来るべきではないかと思う。市長が来れば、市民も汗をかく気になるのではないか。
- タウンミーティングもテーマを絞ってやるべきではないか。
- 出席者が偏っている。20～30 代の人にも出てきてほしい。
- 何らかの方法で若い人の意見を取り上げるべきでは。

・市の職員に、色んな課の事を縦横無尽にやれる人がいると聞いている。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

■紀見北地区公民館（3/24 18:30～）参加者：17 名

・「協働」という言葉がたくさん使われているが、これが具体的にどういう意味か教えてほしい。
・市政モニターを始めることについて、インターネットを使うことを想定しているとのことだが、高齢化を考えれば、紙媒体でのアンケートとした方が良いのでは。若い人向けでも、アンケートは紙媒体のほうがよいと思う。
・市政モニターについて、メールを使う形は良いアイデアだと思う。メールを使うことで垣根が下がる人もいる。
・正月の新聞に県内の人口が出ているが、上富田町や日高町等増えているところもある。増えているからには理由があるはずなので、ヒントになると思う。
・自治基本条例はいつから作っていくのか。公益活動やその支援は具体的にどういったことを考えているのか。
・自分たちだけでやっていけと言われるが、道筋が見えない。
・蛍を飛ばす取り組みを 10 年前からやっていて、形になってきているが、市に支援してもらったことはない。働きかけないと支援してもらえないのか。
・今も活動している市民もいるし、補助をもらってやっているところもある。うまく配分してもらえるような仕組みが必要では。
・県に申請すれば補助金をもらえる制度があることを他団体から聞いたが、こういう情報が市からこない。支援する体制を作っていってほしい。
・転入してきた若い世代にアンケートを取るのはどうか。
・国の交付税も減っていくなかでやっていけるのかという危惧がある。
・税の優遇で魅力があれば、多少遠くても転入してくれるのでは。
・地域担当制度や自治基本条例も良い取り組みだと思うが、市が一歩踏み出しても市民がついてこれないのではないか。
・区の規約の書き方で「福祉」の言葉が入っていないと、そういった活動ができないといった事がある。10 年先をみて規約も変えていく必要があるが、こういった部分をバックアップしてほしい。
・市は 10 年先を見てやってくれていると思うが、地元もついていかないと両方立ちいかなくなる。
・コンパクトシティという考え方の中では、地域差が出てくるのではないか。高齢化している地域は取り残されてしまうのではないか。

- 区単位でなく、もう少し大きい単位で考えると違ってくるのではないか。
- 今でも市内のニュータウンと旧市街では違いがある。新しい単位を作っていくのは良い考え方だと思う。
- 自治基本条例策定委員の拘束時間はどれくらいか。
- 委員の選定については、本当に考えてくれる人を選び出してほしい。